

FLORE21 ホットニュース

会長 小池潔のあれこれコラム

「新しい風が吹く」

フローレ21に来春6人の新卒の学生が入社することが決まりました。しかも6人全てが女性です。「女性は重いものが持てない」「おしゃべりが多い」など言われることがありますが決してそんなことはありません。

女性は聞き上手です。逆に男性は会話よりも何かの行動を通じて会話しようとしません。お客さんの要望を捉え必要なものや好きなものを引き出す力はむしろ男性よりすぐれていると思います。

我々の仕事で重い物も9割がた彼女たちは運んでいます。聞くのが上手なので会話が弾みます。相手もどんどん話し、お客さんと友達関係になることも大事なことです。女性は男性よりも辛抱強くないと思われていますが、女性の方が辛抱強いとのデータも出ています。

将来を見据え、目標に向かって辛抱強くコツコツと仕事に励む能力は、男性をものぐものも持っていると思います。

デンマークでは先日行われた選挙で女性の国会議員の比率が史上最高の44%に達したと報道された。そして引きつづき女性首相が続投すると報じていた。

将来を見据え、目標に向かって辛抱強くコツコツと仕事に励む能力は、我々にとって心強く映り、仲間には頼もしいリーダーとなって見えると思います。

フローレ21に新しい風が吹くと同時にたくさんのお客さんに「フローレ21はよくなったね」そんな声が聞こえるようです。

OFLOの部屋

今週は菊（キク）をご紹介します。

学名は通常家菊をさす。

花径により、菊花展などに展示され、厚物、管物、一文字などの種類がある**大菊**、江戸菊、嵯峨、伊勢菊、肥後菊などのほか、弔事用に用いられる**中菊**、盆栽用に仕立てたり、花壇や鉢植え、切り花など広く用いられる**小菊**

欧米で改良され、ポットマム、スプレーマムなどとして日本に導入された**洋菊**などがある。

鑑賞用のほか食用のものもある。

日本には平安時代に渡来した。**皇室の紋章**として用いられ、桜とともに**国花**になっている。

生育地 : 日当たりがよく、水はけのよい場所

植物のタイプ : 多年草



クシーノ



バルタザール フルーム
まるで糸菊の様な細い花びら特徴です



トスカーナ
情熱的な赤い色で上品さが表れています



タンボーラ

古くから馴染みのあるお共え用としてはもちろん近年では菊と言われないとわからない様なスタイリッシュです。



ビッグディレッド



フォリア



エファピンク



ドリアサーモン

可愛らしいポンポン咲きやピンポンマムは和装ブーケなどに人気です。



ヌーボライトイエロ

優しい淡いイエロは洋花、和花両方あります。



ヌーボ黄

大田店 チャン ロッキ

世田谷店おすすめ

月と日本人の暮らし

自然界に生きる動植物達、その中には月の満ち欠けに大きく影響を受けて生きているものもあります。



月は何十億年も前から地球の周りを回り続け、地球の生物は月からさまざまな影響を受けて進化してきました。

新月や満月の夜は大潮といって、他の日より海面が上昇する日ですが、**ウミガメは新月や満月の大潮の夜産卵の為に砂浜に上がってきます。**

大潮の日に陸に上がって産卵すれば砂に埋めた卵が水没したりする心配がないからでしょう。

ホタルイカは日本海側で海の珍味として有名ですが、**新月の夜に産卵の為に波打ち際まで上がってきて一斉に産卵する**のです。



「ホタルイカ 身投げ」というワードで画像検索してみると幻想的な光景が見られると思います。

青白く光る港の海の写真ですが、これはホタルイカが産卵のために波打ち際まで来て青く発光しているのです。

他にもクサフグや珊瑚（サンゴって動物なんですよ）、陸ガニの一部など大潮の日に産卵をする生物がいます。

動物達と月の運行との神秘的な関係を紹介しましたが、実は我々人間も月と密接に関係した文化を育んできました。

それを紹介していきます。

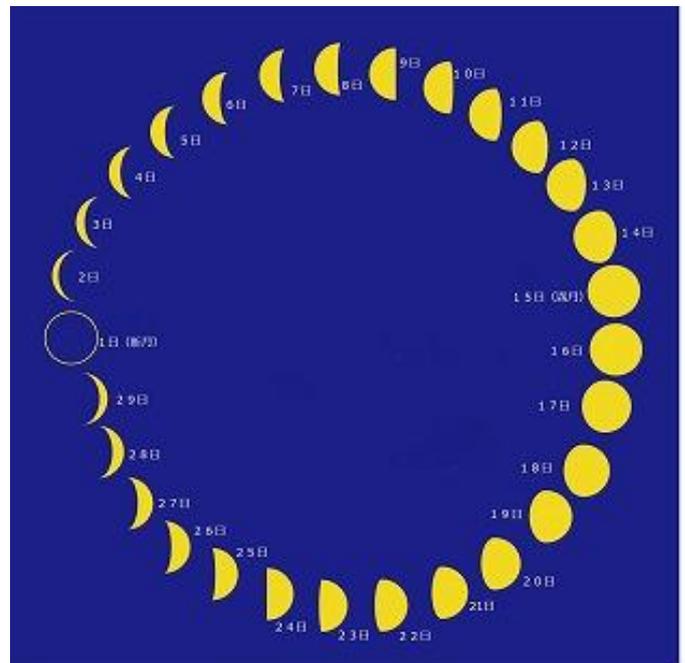
その前に一つルールを決めておこうと思います。

例えばただ3月3日というと旧暦のなのか、新暦のなのか分りにくいので、**旧暦は緑**の背景で**新暦は赤**の背景で表記しようと思います。

現代日本では新暦(グレゴリオ暦)を採用していますが、(グレゴリオ暦とは太陽の運行のみで日付を決める方法です。)

江戸時代以前は旧暦(太陰太陽暦)を採用していました。

太陰太陽暦の特徴として日付が月の動きに連動しているのです。
どういうことかと言うと、月の満ち欠けは約29日で一順します。
それを日付にあてているのです。
図の様に月の形と日付が一致しているのです。



ですから**旧暦の1月1日**は毎年新月の日なんです。



旧暦の3月3日は雛祭りの日ですがその晩は決まって三日月なんです。

旧暦の5月5日の端午の節句の夜は毎年のこんな形の月です。



旧暦の7月7日七夕の夜は毎年こんな形です。

盆踊りは本来旧暦の7月月15日にご先祖様を毎年満月の夜に踊って迎え、十六日に送りました。

何かロマンチックじゃ、ありませんか？

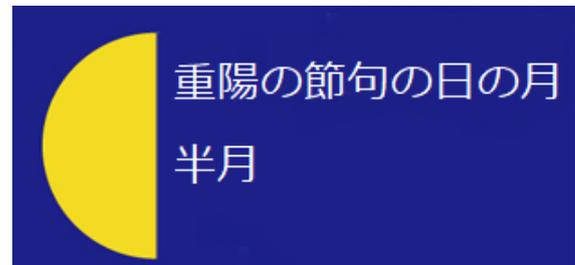


日付と月の満ち欠けが連動しているのもそれぞれの行事に月の形が決まっています。



十五夜は旧暦の8月15日です。当然満月です。

さらに旧暦の9月9日は重陽の節句は毎年こんな形の月の日です。



残念ながら現代の新暦では月の運行と日付が連動していないので、バラバラです。では旧暦の月はどうやってきめるのでしょうか？それは太陽の動きによって決まるのです。

その方法は24節気と言って一年を太陽の動きを元に一年を24等分します。具体的には一番昼の短い日(冬至)と昼の長い日(夏至)で二等分します。更にその中間の日を春分、秋分とします。そしてそれらをさらに6等分して一年を以下の表の様に24等分します。24節気は節気と中期が交互に来ます。

新月と、新月の期間にどの中期が入るかによってその期間が何月かが決まります

	正月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
節気	立春	啓蟄	清明	立夏	芒種	小暑	立秋	白露	寒露	立冬	大雪	小寒
中気	雨水	春分	穀雨	小満	夏至	大暑	処暑	秋分	霜降	小雪	冬至	大寒

例えば 新月と新月の間に雨水が入ればその期間は1月となります。

この様な旧暦のルールで一年に日付をつけると新暦と旧暦の間に約1ヶ月のギャップが出来ます。

2023年の旧暦の1月1日は新暦の2月4日になります。その年によってギャップ大きさにバラツキがありますがおよそ1ヶ月です。つまり新暦1月1日より約1ヶ月遅れて旧暦の1月1日がやって来る事になります。

そうすると伝統行事に感じる様々な違和感の謎が解けてくるのです。

3月3日の桃の節句(雛祭り)が何で桃の花は全く咲いていない時期に桃の節句なのかと、童謡に「お花をあげましょ桃の花♪」などとありますが、桃なんて咲いてないじゃないかと思った人も多いのではないのでしょうか。

もうお分かりですね。三月三日の雛祭りは本来旧暦の三月三日すなわち新暦の4月初旬に行われていた行事なのです。

5月5日の端午の節句も花菖蒲を飾りますが、見頃は6月上旬からです。

旧暦の五月五日とぴったりと一致します。



7月7日の七夕は毎年の様に天気が悪くて何毎年曇りなんだと思っていた人も多いのではないのでしょうか？

でもそれもそのはず新暦の7月7日は大概梅雨の時期と重なり上空を見上げれば梅雨前線による雨雲が夜空を覆っています。

でも旧暦の7月7日なら新暦の8月初旬位だから梅雨も明けて、夜空はスッキリ、織姫(ベガ)、彦星(アルタイル)もハッキリ見えるのです。

何故お盆は東京は主に7月15日で地方は8月15日なのでしょう？

本来は日本全国旧暦の7月15日がお盆でしたが、明治に入り新暦7月15日に

お盆を迎えるようになると農繁期とぶつかってしまい、1ヶ月遅らせて**新暦の8月15日**にお盆を変更した経緯があるので



ですから現在は主に**新暦の7月15日**にお盆を迎える地域（東京や東北、北陸地方の一部）と**新暦の8月15日**（月遅れ盆）にお盆を迎える地域（大部分の日本）と、**旧暦の7月15日**にお盆を迎える地域（沖縄、奄美地方など）に分かれているようです。

なので本来**旧暦の7月15日**の盆の日の夜は満月で、明るく夜空を照らしていました。そして人々は盆踊りで夜通し踊り通したりしたのです。ご先祖様の霊は毎年満月の夜にやって来たのですね

9月9日は重陽の節句です。陰陽思想では奇数が陽の数で、陽の数で最大の9が2つ並ぶ日は陽の気が強すぎて不吉とされ、菊等を飾って邪気を祓う日です。現在では**新暦の9月9日**に重陽の節句を行いますが、かつては**旧暦の9月9日**（**新暦では10月初旬**）に行いました。

新暦の9月初旬の菊と10月の菊の育ちの違いは歴然だと思えます。やはり菊が一番元気に育つ季節が本来の重陽の節句の日なのだなと思えます。

このように日本人は昔から月と共に暮らしてきました。

ところで皆さんよく知っている浦島太郎の話ですが、私は彼が亀を助けた前の晩はこうだったのではないかと思います。

～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～

太郎はその晩海に出て漁をしていました。
満月の夜で海は大潮で潮の流れが良く魚が良く釣れた。

「うひょーやっぱり満月の夜はよく釣れるな 夜が明けたら市場でこれを売って一杯やろう」

遠くに盆踊りの祭囃子が聞こえていました。
今日は7月15日、お盆なのです。



夜が明け、市場で魚を売って家路の途中、太郎は海岸で子供がはしゃいでるのを見ました。

よく見ると子供達は寄ってたかって一匹の亀を虐めていたのです。
亀は満月で大潮の晩、産卵のために海岸に上がった雌の亀で、産卵を無事に終えたは良いものの、海に戻る途中砂の窪みに落ちてもがいているところを、運悪く子供達に見つかってしまったのでした。
太郎は可哀想に思い、魚を売ったお金の一部を子供達にあげてカメを助けてあげました。

「ちくしょー俺の酒代が・・・」

～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～
後は皆さんのよく知っている浦島太郎のお話です。

…どうでしょう？ 旧暦を知ったらそんな気がしてきませんか？
ではでは。

世田谷店 中村

仕入れの素☆葛西店

10月の土曜日 多摩市華道連盟のいけばな展が開催されていたので勉強しに多摩センター駅近くのパルテノン多摩ギャラリーへ行ってきました



受付で記帳をすませじっくりと鑑賞
エントランスには素敵な三角形の水盤が飾られていました



背景にブラックリーフ 足元に紅葉木苺
動きがあるデザインが素敵でした
荘厳華ですね



なんとも秋らしい作品
長く見ていたい気持ちになります

嵯峨御流

ノバラの斜めの線とダークなカラーのピンポン菊のデザインがいいですね

瓶花

花瓶に主体となる花材の特徴を生かし瓶との調和を図りながら自然の枝ぶりの美しさを簡潔にいけ表すもの



ゴージャスに見える草月流の作品

草月流 型にとらわれず自由に人の個性を映し出すといった流派なのですね 華やかで素敵です

生花

高 中 下の三所に天、地、人の三枝を振出します

色々な意味があるのですね

シンプルですが深いです

美的ですね



←葛西店に出荷してくれる飯島園芸さんの根引松 ありました

カッコいい感じで生けてられていました
こんな感じでお正月に真似して生けてみたいですね

盛花 →

自分が気に入った作品

自然な生けかたと秋らしい季節感が伝わりとてもいい作品だと思いました



こちら水盤の盛花
洋風で可愛い感じでした

私に付き合ってくれた息子のお気に入り作品
天まで伸びそうなヒバと空間の使い方がいい
ですね

色々な流派が参加して展示してあり 異なる
流派の生け方など学ばせて頂きました
他にも素敵な作品が沢山あり感動し心も清め
られた花展でした
多くの作品に、仕入れに携わった花材が使われ
ており、使い方や選びかたなどよく勉強になり
ました
花水木さんいつも有難うございます



多摩地区の公園を懐かしみながら歩いてのんびり散
歩し帰路につきました

秋明菊が綺麗に咲いていました

葛西店 石村

【驚き!!】の提案 板橋店

皆さんこんにちは！板橋店の河本です🐾

10/4~6に、静岡・愛知・三重・滋賀の産地さんを巡ってきました！

今回のホットニュースでは産地ツアーの一部をご紹介します🐾

Day1 ○武農園さん（静岡県）

5月に訪ねた時は、ハウスの中が青々としていて、これから！という雰囲気でしたが、今回は次のシーズンに向けて準備に入っている感じでした。

そんな中でもハウスには可愛い子たちが…！！

“ディスクディア カンガルーポケット”

お豆さんみたいでぷっくりとしていて可愛らしいですね！思わず触りたくなるフォルムです…！！



“ディスクディア ミリオンハート”

こちらは白い小さい可愛いお花が咲いていましたー！

先程のカンガルーポケットもそうですが、寒さ・乾燥に強いので比較的育てやすいです。店頭で見かけた際にはぜひ♪



Day2 ① ○鈴木良浩さん（愛知県渥美半島）

アジサイでお馴染みの鈴木良浩さんですが、今回は観葉植物のハウスを見せていただきました！

もりっとわさっとジャングルのようで、かっこいい観葉が多く目移りしてしまいました…！！





その中でもイチオシな鉢物は…

“アロエ デルタライト”

なんとも言えない不思議な模様の斑が入っているデルタライト。鮮やかなグリーンも綺麗です。

遠目からの写真なので分かりにくいですが、細長〜く伸びた茎の先には赤オレンジのぷっくりとしたお花が咲きます。それもまた可愛い！



アロエ自体は比較的低温に強いですが、この品種は寒さにやや弱いそうなので、冬は室内で管理するのがオススメです。

☞日光に照らされたデルタライト、斑がより際立っていて可愛すぎませんか？
(´艸`*)

Day2 ③

○荒木植物園さん（愛知県渥美半島）

初めて荒木さんの作る観葉植物を見たとき、こんな立派で不思議でかっこいい植物が日本で作られているの！？と私は衝撃を受けました。



